



宝ホールディングスの サステナビリティ活動とCFPへの取り組み



宝ホールディングスの概要

宝グループの概要

社名： 宝ホールディングス株式会社
創業： 1842（天保13）年
設立： 1925（大正14）年9月6日
上場市場： 東証プライム市場（証券コード： 2531）
本店所在地： 京都市下京区四条通烏丸東入
代表者： 取締役社長 木村 睦
資本金： 13,226百万円
従業員： 5,729名（グループ連結／2025年3月末現在）
連結子会社： 68社（2025年3月末現在）
2025年3月期実績 連結売上高 3,626億円
連結営業利益 205億円

宝グループの構成

宝ホールディングス株式会社

宝酒造

国内事業



宝酒造インターナショナルグループ

海外事業



タカラバイオグループ

バイオ事業

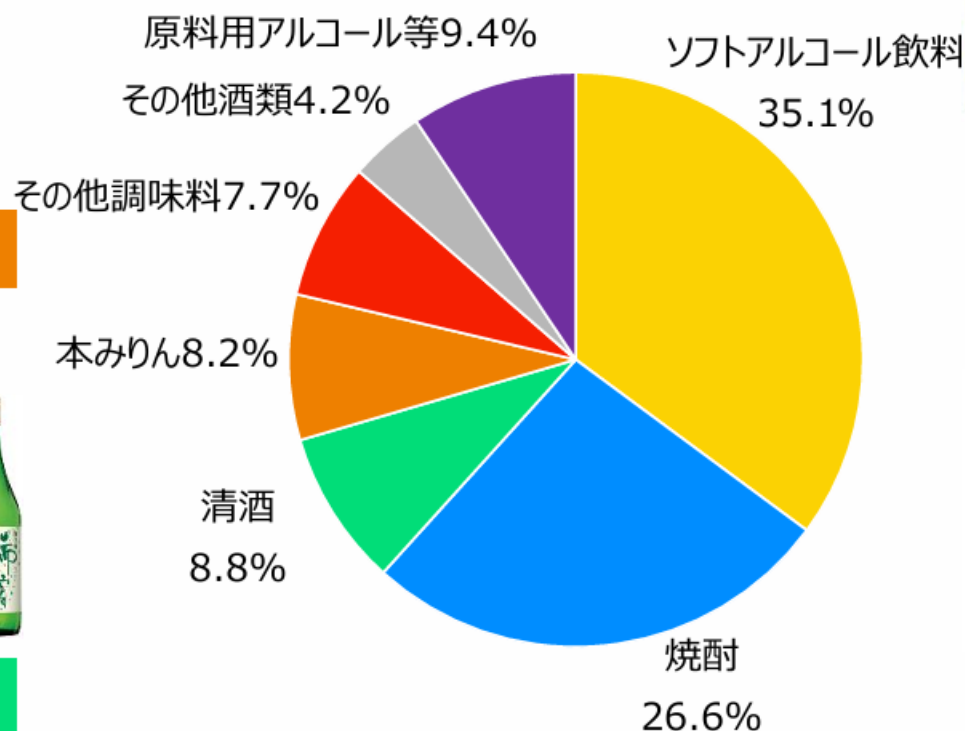


その他グループ会社

商品紹介

タカラcanチューハイなどのソフトアルコール飲料や、焼酎、清酒、本みりんといった、日本の伝統的なお酒を中心に幅広いカテゴリーのアルコール飲料を製造・販売

◆ カテゴリー別売上構成比（2025年3月期）



宝グループの構成

宝ホールディングス株式会社

宝酒造

国内事業



宝酒造インターナショナルグループ

海外事業



タカラバイオグループ

バイオ事業



その他グループ会社

海外事業（宝酒造インターナショナルグループ）

海外酒類事業と海外日本食材卸事業の2つの事業を展開

◆海外酒類事業（和酒・洋酒）

2025年3月期売上高 235億円

日本からの輸出および海外での現地生産により、清酒「松竹梅」を中心とした和酒やウイスキーなどを世界各地域で提供



◆海外日本食材卸事業

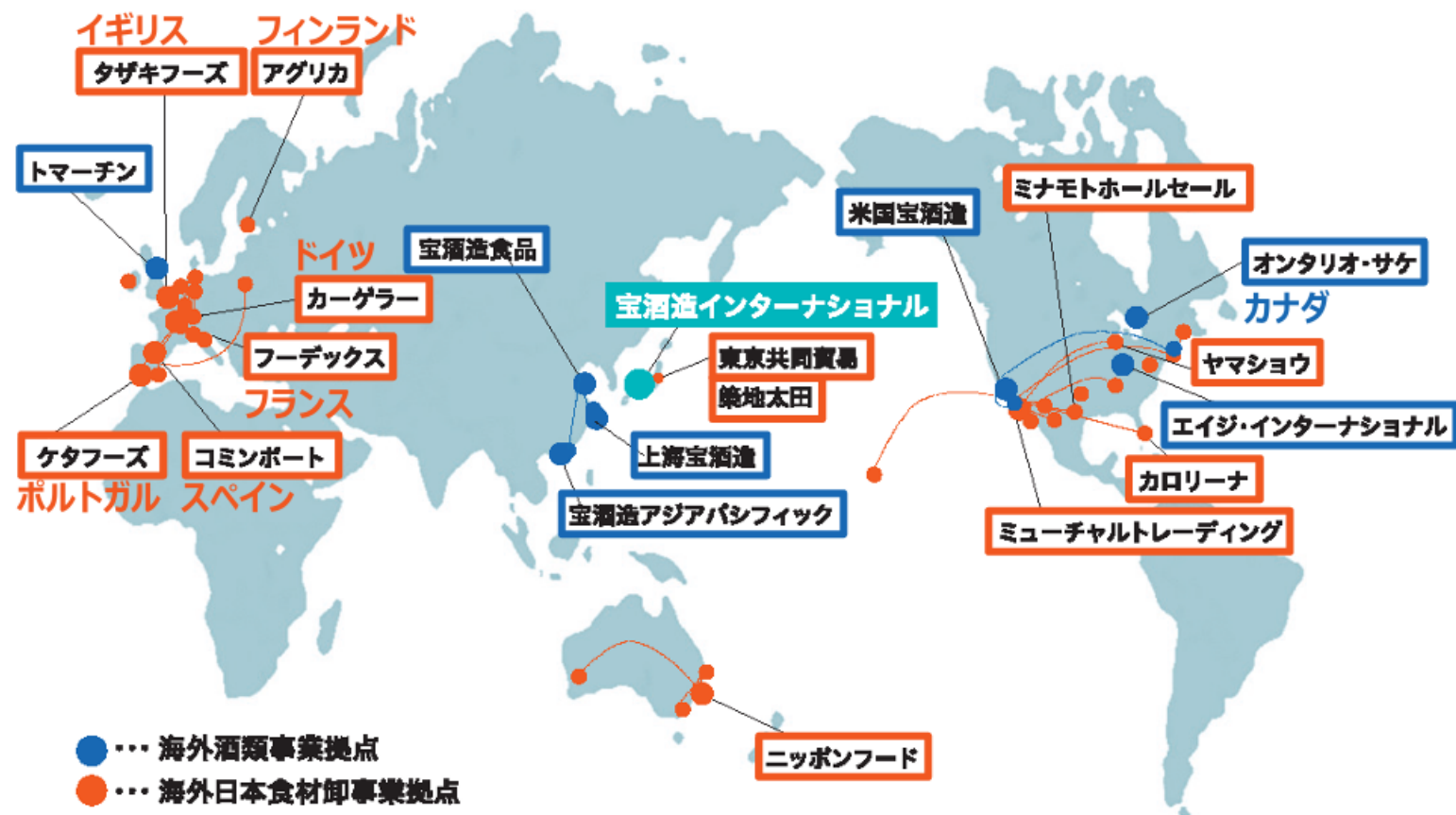
2025年3月期売上高 1,647億円

コメや寿司ネタなどの日本食材や清酒、調味料を日本食レストラン、小売店などに供給



海外事業の拠点

海外酒類事業ではアメリカ、中国、イギリス、カナダに製造拠点を保有。
海外日本食材卸事業ではアメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアと世界に広がるネットワークを持つ



宝グループの構成

宝ホールディングス株式会社

宝酒造

国内事業



宝酒造インターナショナルグループ

海外事業



タカラバイオグループ

バイオ事業



その他グループ会社

バイオ事業

寶酒造（現、宝HLD）のバイオ事業としてスタートし、2002年タカラバイオ株式会社を設立。バイオ産業支援事業は、世界中のバイオ研究者が製品・サービスの顧客

試薬



一般研究用試薬



体外診断用医薬品

遺伝子を増幅する酵素や
試薬セット（キット）など
（数千～数十万円～）
約10,000品目

機器



PCR装置 自動核酸精製装置



シングルセル解析システム

遺伝子を増幅する装置、
細胞を解析する装置など
（数十万～数百万円～）

CDMO



再生医療等製品関連受託



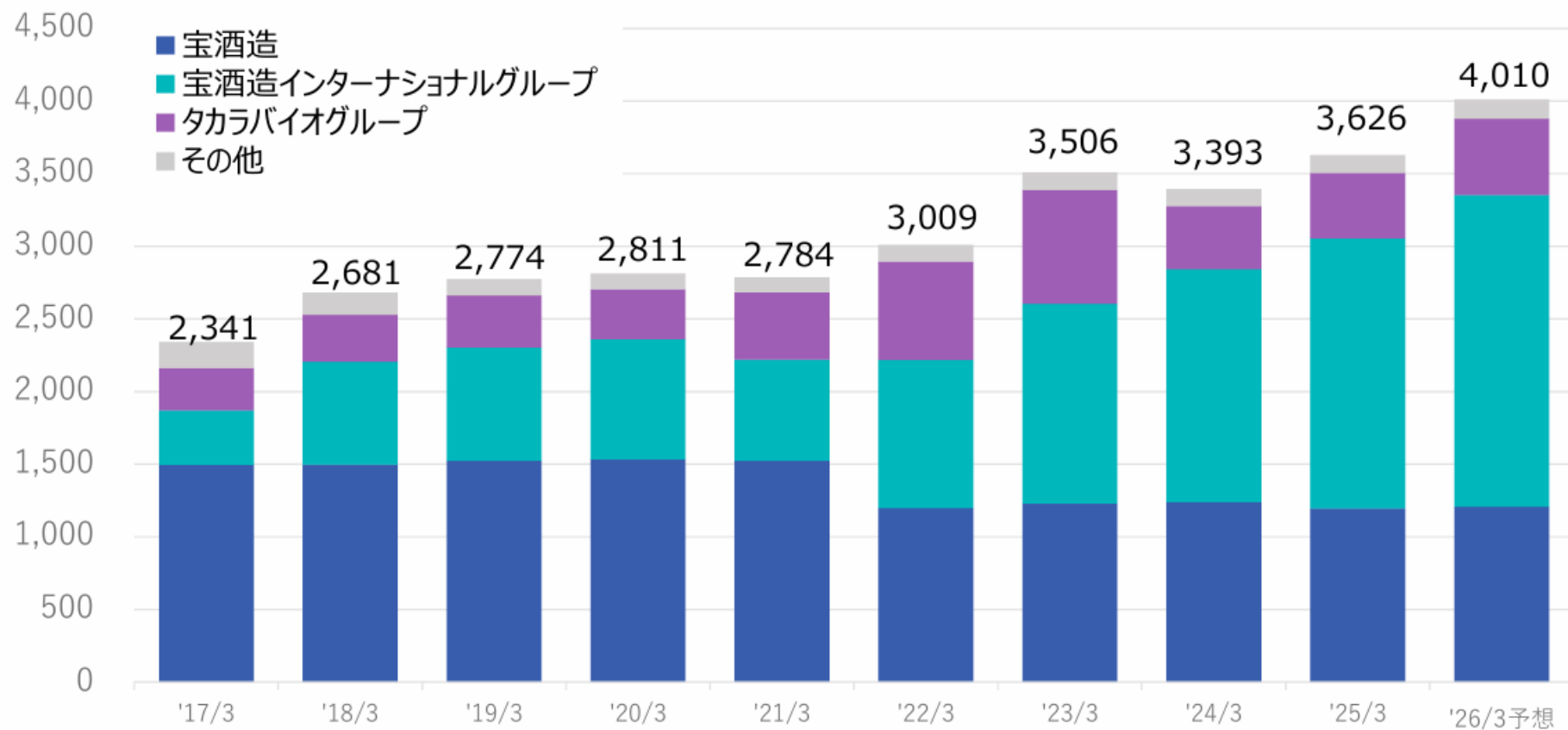
遺伝子解析/検査受託

研究者（顧客）から
サンプルを預かり、得られたデー
タや産物を納品
（数十万～数千万円～）

事業別売上高推移

グループ全体の売上高は、右肩上がりに推移している

(億円)





サステナビリティ活動

<基本的な考え方>

宝グループは「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します」という企業理念のもと、日本伝統の酒造りの発酵技術と最先端のバイオ技術の革新を通じて、食生活や生活スタイル、ライフサイエンスにおける可能性を探求し、新たな価値を創造し続けることによって社会への貢献を果たしてきました。

穀物や水、微生物といった様々な自然の恩恵のもとで事業活動を行う当社グループにとって、豊かな自然環境が保たれることは、事業を継続するうえでの大前提です。また、食品や医療に関わる事業を営む企業として、安全・安心な製品・商品・サービスを提供することは最も重要なテーマであり、同時にアルコール関連問題をはじめとする様々な社会課題にも対処していく必要があります。

当社グループを取り巻く社会環境は急速に変化し、気候変動、生物多様性保全、資源保全、人権尊重といった多様な課題への対応が世界的規模で求められており、持続可能な社会づくりに向けた企業の責任はますます大きくなっています。

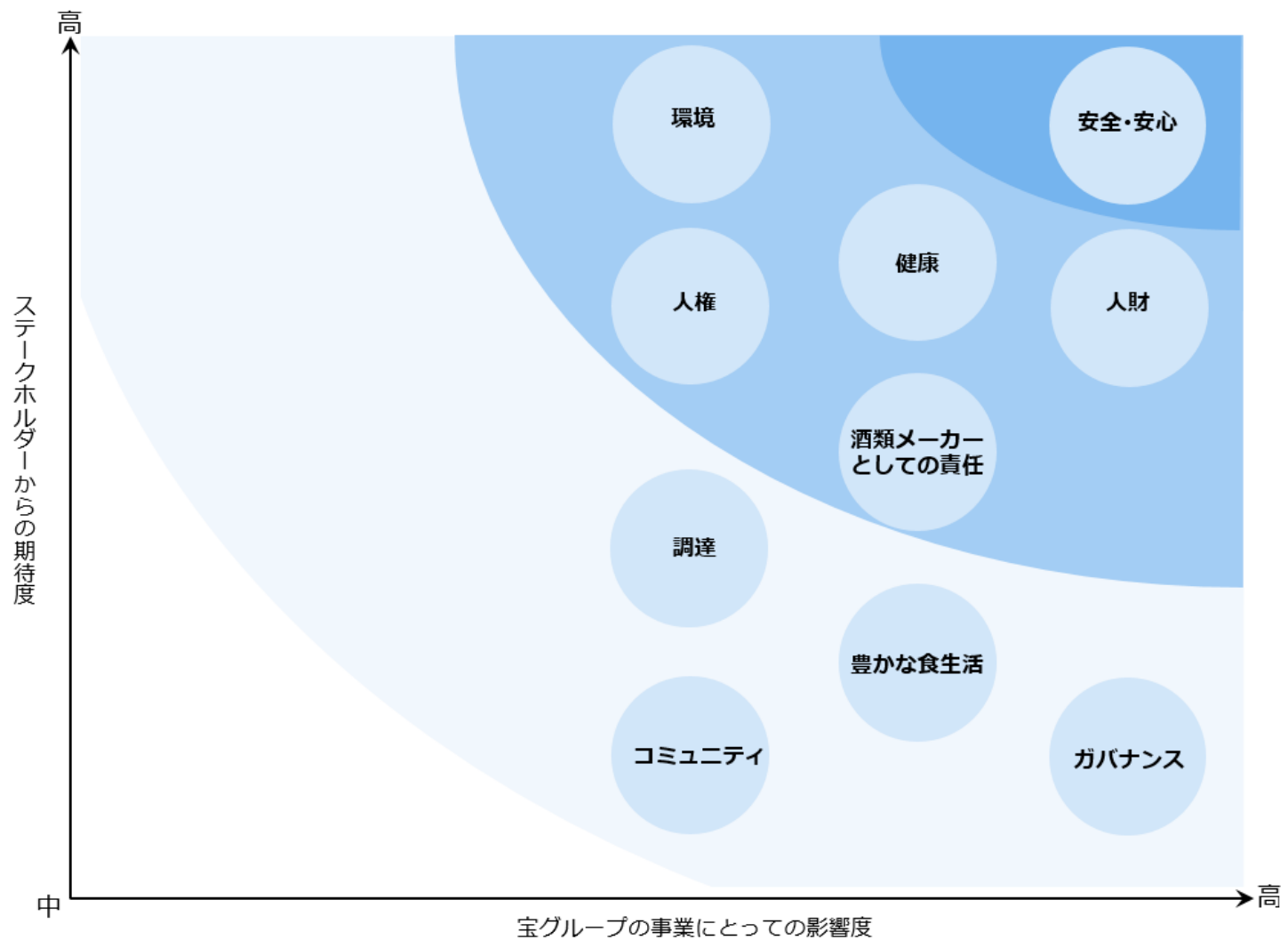
当社グループは「Smiles in Life～笑顔は人生の宝～」をありたい姿（Vision）として掲げ、世界中の暮らしを、命を、人生を、笑顔で満たすために挑戦し続けることを宣言しています。そして、事業活動を通じた社会的価値の創造を将来にわたって実現し続けていくためには、様々な社会課題の解決にこれまで以上に取り組む必要があるという認識のもと、「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」を公表しています。

「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」では、当社グループを取り巻く社会課題について、「安全・安心」をはじめとする10の重要課題（マテリアリティ）を取り上げ、各々についての取り組み方針を示しており、さらに、その方針に基づく具体的な中長期目標を設定した「宝グループ・サステナビリティ・ビジョン」を策定しました。

当社グループは、これからも事業活動を通じた社会的価値の創造により、ステークホルダーの皆様から信頼される企業グループを目指すとともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

※2023年4月改定

＜宝グループとしてのマテリアリティ・マトリクス＞



※2023年4月改定

具体的な取り組み

◇マテリアリティ「環境」

宮崎県黒壁蔵への太陽光パネルの設置と電力の実質再生エネルギー由来100%への切り替え



◇マテリアリティ「健康」

世界中の研究者向けに試薬や機器を提供しライフサイエンス研究の発展に貢献

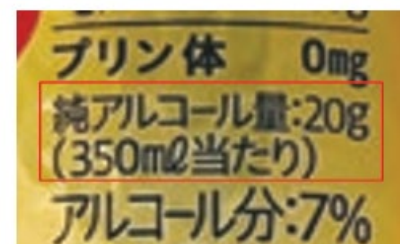


具体的な取り組み（豊かな食生活の提案）

- ◇マテリアリティ「豊かな食生活」
海外日本食材卸事業を通じて
和酒和食文化の普及



- ◇マテリアリティ「酒類メーカーとしての責任」
アルコール問題への紳士に向き合い、
製品に純アルコール表示



ESG外部評価



FTSE4Good

FTSE4Good
Index Series



**FTSE Blossom
Japan Index**

FTSE Blossom
Japan Index

2025 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数

※ THE INCLUSION OF [Takara holdings inc.] IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF [Takara holdings inc.] BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数



S&P/JPX カーボン・
エフィシエント指数



CDPサプライヤーエン
ゲージメント・リーダー

※2025年7月時点



CFPへの取り組み

グリーンCPS協議会のGX人材育成講座



講師によるセミナー



ワークショップ：グループワーク



ワークショップ：LCA専門家による解説



ワークショップ：グループ発表



「京都グリーンCPS」の設置

A: 製品軸での
評価・開示

B: エコデザイン

C: サプライヤ・
マネジメント

D: 情報共有・
コラボ

脱炭素問題に対し、国内でも先進的な活動を進めている京都地域を拠点とし、
2024年7月「**京都グリーンCPS**」を設立。4つのセグメントで活動中。

＜会員企業＞

- ・ (株) 川島織物セルコン
- ・ (株) 島津製作所
- ・ **宝ホールディングス** (株)
- ・ 東レエンジニアリング (株)
- ・ 学校法人 龍谷大学

＜オブザーバー＞

- ・ ローム (株)
- ・ 京都府 総合政策環境部 脱炭素社会推進課



◇取り組み当初の動機

- ・サステナビリティサイト開示による企業価値の向上

- ・将来予想されるCFP提出依頼への準備

製品軸でのGHG排出量(CFP)算定の取り組み

対象アイテム：寶CRAFT「京檸檬」



算定方針策定						
プロジェクト発足						
製造フロー確定						
算定データ収集						
工場見学						
原単位選定・算定						
開示案レビュー						
開示						

製品軸でのGHG排出量(CFP)算定の取り組み

◇製造工場視察



◇担当者との折衝



各工程におけるGHG削減の可能性の発見

社内コミュニケーションよりサステナビリティに対する社内での意識変革



寶CRAFT <京檸檬> の広がり



寶CRAFT <京檸檬> は、生産者・加工者・販売者が一丸となって、京都における耕作放棄地を京檸檬栽培のために有効利用し、栽培した「京檸檬」の果皮などを活用した壺入りチューハイです。耕作放棄地を再生し、生物資源の生息環境を整備することは、その地域の生物多様性保全につながります。また、売上の一部を寄付したり、社員による収穫ボランティアを行ったりすることで、栽培の安定・拡大を支援し、持続的な自然の豊かさの保全に貢献しています。



2018年京檸檬プロジェクト協議会が発足。耕作放棄された土地を再活用しながら、京檸檬という新たな特産品を栽培するプロジェクトが結成された。生産者・加工者・販売者が一丸となって「京檸檬」の栽培やブランディングに取り組んでいる。



◇ 京都駅周辺の土産需要



◇ 料飲店需要



循環するしあわせ — 京檸檬プロジェクトの目的

このプロジェクトの目的は、ただ商品をつくることではありません。

私たちが目指すのは、「循環」するしあわせを育むこと。

栽培者、果汁会社、そして私たちのように消費者の皆さまへ商品を届けるメンバー。

それぞれの立場がつながり、支え合うことで、ひとつの大きな輪が生まれます。

その輪の先にあるのは、生産者の想いと、消費者の笑顔がつながるサステナブルな未来です。

京檸檬が育む、5つのサステナビリティ

1. 気候変動への適応

地球温暖化の影響は、果実の栽培にも変化をもたらしています。

かつてレモン栽培に不向きとされた京都の地でも、今では美しい京檸檬が育っています。

2. 耕作放棄地の活用

レモンは手間が少なく、高齢者でも育てやすい果実。

その特性を活かし、耕作放棄地を再び命の宿る場所へと変えています。

3. 地域創生

京檸檬をビジネスモデルとして確立することで、京都の農村地域に新たな活力をもたらします。

地元の人々とともに、地域の未来を育てていきます。

4. アップサイクル

クラフト京檸檬では、果汁だけでなく皮や形の悪い果実も余すことなく活用。

これまで廃棄されていた部分に新たな価値を見出し、命を吹き込んでいます。

5. 世界への日本文化発信

宝酒造は、京檸檬を通じて日本の魅力を世界へ。

チューハイという親しみやすい形でインバウンド需要や海外市場への展開を視野に入れています。

京檸檬が、世界の食卓に彩りを添える日も遠くありません。

サステナビリティサイト開示による企業価値の向上

将来予想されるCFP提出依頼への準備

サステナビリティサイト開示による企業価値の向上

将来予想されるCFP提出依頼への準備



各工程におけるGHG削減の可能性の発見

社内コミュニケーションよりサステナビリティに対する社内での意識変革

大手得意先へのCFP提出を実施

実際の商品マーケティングに貢献